2026 年 7 月 31 日

# 臨床データ利用のお願い

海南病院では、以下の研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報を研究目的に利用されることをご希望されない場合などお問い合わせがありましたら、お手数ですが以下の問い合わせ先にご連絡ください。

1. 研究課題名

「形質細胞腫瘍患者の治療成績・有害事象および、それらに影響を与える因子を評価するための多施設共同後方視的解析」

2. 研究責任者

海南病院　血液内科　　矢野寛樹

3. 研究の概要

多発性骨髄腫およびその類縁疾患（AL アミロイドーシス、形質細胞白血病、孤立性形質細胞腫）は難治性の形質細胞性腫瘍です。有効な新規薬剤が次々と日常診療で使用可能となり、形質細胞腫瘍の治療成績は改善しています。しかし予後不良リスクがある場合の治療はいまだに難しい疾患です。

予後不良リスクは様々あり、疾患に由来するリスクとしては International Staging System（ISS)や、染色体異常が知られています。患者さんに由来するリスクとしてはフレイルや臓器機能障害が知られています。しかし、これらの予後不良リスクは大規模な臨床試験のデータに基づいて抽出されており、日常診療を反映していない可能性があります。そのため、日常診療の患者さんの診療に関する情報を蓄積し、検討することが重要です。

そこで、今回、名古屋市立大学病院が研究責任機関である本研究に、当院は共同研究機関として参加します。下記の情報を収集し、名古屋市立大学病院へ情報提供しますが、その際は個人が特定されないように行います。

4. 研究方法

①対象となる患者さん

2010 年 1 月～2025 年 12 月に形質細胞腫瘍（多発性骨髄腫、AL アミロイドーシス、形質細胞白血病、孤立性形質細胞腫）に対する診療をうけた患者さんへ

②使用する試料等

カルテ情報

- 生年月日、性別
- 形質細胞腫瘍の診断名、診断日、治療歴
- 形質細胞腫瘍の染色体異常
- 髄外形質細胞腫の有無
- 治療レジメン
- ADL(activity of daily living)、PS(performance status)、IADL(instrumental ADL)、G8、同居家族の有無
- 既往歴、併存症、家族歴、社会生活歴
- 採血結果
- 有害事象、輸血歴、入院歴
- 病理組織所見

奏効の程度、再発再燃日、治療の奏効期間、健康状態

5. 個人情報の取扱い

貴重な患者さんの個人情報は、「個人情報保護法」及び「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」など各種法令に基づいて管理します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。

6. 問い合わせ先・相談窓口

JA 愛知厚生連　海南病院　血液内科

浅尾優　電話：0567-65-2511（代表）